

2017.09

ソフトパワーで
大阪のさらなる未来を輝かせよう

Sencia

〔センシア〕

多摩大学大学院教授・田坂塾塾長

一般社団法人大阪青年会議所 理事長

巻頭対談〔田坂広志×岡部倫典〕

テーマ「21世紀の知性と大阪の未来」

特集「温故知新 大大阪時代を歩く」

【第5回】難波・南海ビルディング×大阪高島屋

「探訪・浪速の名匠」 大阪フィルハーモニー交響楽団

「ザ・元気人インタビュー」 芸人 千原せいじ

「この店、この一品。」 浪速割烹 菟川

写真: 南海ビルディング

対談 巻頭



テーマ:

21世紀の知性と大阪の未来

国 際情勢やビジネス環境が激変する21世紀において、これまで以上に、技術や商品、サービスやビジネス、企業や組織、市場や産業、地域や社会など、様々な分野でのイノベーション（変革）を牽引していく人材が求められている。今号の理事長対談のゲストは2015年に大阪青年会議所主催の『大阪変革塾』の塾長を務められ、現在も知の指南役として大阪青年会議所をご指導くださっている田坂広志氏。大阪を、そして日本を変革するために何が必要なのか、大阪の未来を担うリーダーに求められる知性とは何か。21世紀の変革リーダーが身につけるべき「7つの知性」について伺った。

目の前の現実を、
変えるために必要なのは、
「7つの知性」。

理事長 今日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。と、言います。先生が提唱していらっしゃる「21世紀の知性」は、先行き不透明な今こそ必要なのではないかと感じています。現実を変革するために求められる「知の力」について、そのエッセンスをお聞かせください。

田坂氏 私は、近著『知性を磨く』（光文社新書）において、21世紀の変革リーダーに求められるのは「7つの知性である」と申し上げました。7つの知性とは、「思想」「ビジョン」「志」「戦略」「戦術」「技術」そして「人間力」です。この7つの知性をバランス良く身につけていなければ、世の中や目の前の現実を変えることはできません。大阪の地で、大阪JCIに集まり、世の中を良きものに変えていくという志を持つ方々は、ほとんどが経営者でありリーダーだと思いますが、これらの方々が本当に世の中を変えていくとするなら、この「7つの知性」を垂直統合して身につける必要があります。

青年会議所の役割は
「スーパージェネラリスト」を
育成すること。

理事長 私が日頃から大切にしているキーワードに「共生」があります。青年会議所だけですべてがうまくいくというわけではなく、私たちの思いに共感してくださる方々、団体等と共に大阪を良くしていく、うよと動いている最中です。大阪府では万博の誘致も始まっていますし、これに私たちも賛同し、大阪を良くするきっかけにしたいと思っています。

田坂氏 日本青年会議所の役割は、いくつかありますが、最も重要な役割は、やはり人材育成だと思っています。青年会議所は四十歳で卒業ですが、人生百年時代において四十歳までというのは、プロとしても、人間としても最も鍛えられる時代です。昔から「四十にして惑わず」と言いますが、四十歳になると、仕事でもそれなりの力も身につく、志も定まり、腹を据えて「よし、世の中を変えよう」と動き出すことができます。そして、さらに四十歳を超えて、「7つの知性」をバランス良く身につけた「スーパージェネラリスト」を目指していただきたいのです。確か大阪JCIは日本最大の青年会議所ですね。

理事長 はい、今年は1000名近い現役会員で構成されています。

田坂氏 それはつまり、世界で最大のJCIということですね。すなわち、大阪JCIは、世界の中心にありながら、青年経済人という人材育成を担う存在です。そうだとすれば、「日本や世界において、これからどのような人材が育つべきかを知りたかったら大阪に行け。そこには、素晴らしい人材が育っている」と言われるようなJCIになっていたのだ

理事長 それぞれの知性について、お聞かせ願えますか。

田坂氏 まず「戦略」ですが、企業や市場、産業や地域を変革するためには「戦略が必要だ」とよく言われます。しかし、それだけでは目の前の現実を変えられません。それを本気で変えようとするなら、戦略を立てると同時に、残りの6つの知性が必要になります。なぜなら、戦略とは、「戦いを略はぶ」と読むからです。すなわち、戦略思考とは、いかに無駄な戦いをしないかという思考なのです。ただそれは、組織の資源を無駄に使わないということだけではありません。最も重要なことは、部下や社員のかげがえのない人生の時間を「瞬たりとも無駄にしない」という覚悟です。そういう覚悟がなければ「戦略」に魂が宿らない。変革リーダーは、まず、そこを理解すべきでしょう。

理事長 「戦略」において最大の効果を発揮するためには、どうすればいいでしょうか。

田坂氏 そのためには「追い風を活かす」ことが必要です。追い風とは、世の中の変化のこと。市場や社会がAからBに変化する、その変化の風を活かして変革を仕掛けることが戦略思考の要諦です。しかし、そのためには、世の中がどの方向に変化するかの「ビジョン」を持つていなければならない。かつてデジタル革命の初期にあるフィルムメーカーの方が相談に來られました。今後もお客様にフィルムを使ってもらうにはどうすればいいか、その戦略を教えてほしいと言われるのです。しかし、それは「向かい風」の戦略です。ご承知のように、デジタル革命の結果、いまフィルムを現像する人はほとんどいなくなりました。「ビジョン」というのは、これからの世の中の変化を深く洞察する力です。そして、その洞察のために必要なのが「思想」です。今日は時間が無いので、この「思想」について詳しく話すことはできませんが、これを学びたい方は、拙著「使える弁証法」や『複雑系の知』などを読んでください。



い。2015年に大阪JCIの皆さんと共に開講した『大阪変革塾』は、まさにそれを目的として立ち上げたものです。

理事長 先生のおっしゃるように、これからの時代の人材のあるべき姿は、私たちが指し示していかなければなりません。そもそも、大阪JCIのメンバーは根本的な力や個性を持っています。この力を発揮すれば、素晴らしい形になるのではないかと期待する一方で、そのスイッチを入れることの難しさを感じています。

田坂氏 それには、高い志を掲げたプロジェクトを立ち上げることです。志こそが、メンバーが力を発揮する原動力になり、志があれば、自然にいろいろな力が身についていきます。そして、メンバーを成長させるためには、何よりも、リーダー自身が成長することです。リーダーが成長しようとする組織では、メンバーも成長します。最高の叡智は後姿から伝わるからです。

日本において
ソーシャルビジネスとは、
「白い白鳥」。

理事長 先生は「社会起業家論」がご専門でいらっしゃるのをお聞きしたいのですが、最近注目を集める「ソーシャルビジネス」が人や社会に与えるインパクトについてどうお考えでしょうか。

理事長 先生は「戦略」を「戦術」として実行することが大切だとおっしゃっています。その実行において留意すべきことは何でしょうか。

田坂氏 「戦術思考」とは「戦略思考」とは異なり、すべてを固有名詞で考える思考です。どの会社の、誰に、どのようなチャネルでコンタクトするか。そのとき、競合企業との関係や社内事情をどう考えるのか。固有名詞のレベルで具体的に検討しなければ物事は進みません。そして、こうした検討において重要なのが、人間や組織というものの泥臭い現実を、どれほど知っているかです。昔から「現場経験」の大切さが語られ、「若い頃の苦労は、買つてもせよ」と言われたのは、「つには、こうした人間と組織についての叡智を身につけるためです。青年会議所のメンバーの皆さんは、どなたも、日々の仕事で、その泥臭い現実と格闘し、「苦労をされている」と思いますが、その苦労がすべてこの叡智に結びついていることを知って頂きたい。

コミュニケーションの8割は
「ノンバーバル」。

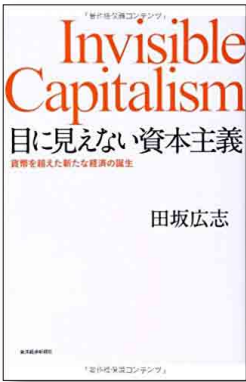
理事長 「戦術」の次に必要な知性である「技術」とは、どのようなことを指すのでしょうか。

田坂氏 「技術」で最も大切なものは、コミュニケーション技術です。しかし、それは決してパワーポイントの作り方や企画書の書き方というものではないのです。実は、最も重要なことでありながら皆が理解していないのは、「コミュニケーションの8割はノンバーバルだ」ということです。すなわち、言葉を超えて相手に伝わるコミュニケーションこそが本質なのです。具体的には、例えば「面構え」です。相手の面構え、眼差し、身振り、仕草、雰囲気を見ると、相手の人物がよく分かります。例えば、会社業者に業者が来て色んな売り込みをしても、まずは、商品よりも相手の人物を見ますね。



目に見えない資本主義
Invisible Capitalism

(東洋経済新報社)



2016年の日本青年会議所の運動を構築するうえで最も参考に使って頂いたのが本書であるが、今は経営者としても繰り返し読ませて頂いている。
『これからの資本主義に何が起ころのか』
『そのうえで、それらの変化に対応してどのように会社経営をしていくのか』
本書は、この問いに対する明確な答えを示している。
「螺旋的発展の法則」「対立物相互浸透の法則」などの弁証法の法則によって、資本主義の未来を見事に

に予見している。共感経済社会の到来である。
そのような社会において経営者にはどのようなことが必要とされるのか。
まずは、「目に見えるモノ」から「目に見えないモノ」へ価値を見出すパラダイムシフトである。それは、日本人が古くから持つ「心」の価値観を見つめなおすことから始まり、日本が持つ見えざる資本が新しい考え方の方向性の柱となる。
目に見えない資本とは、「知識」「関係」「信頼」「評判」「文化」。それらを総称したのが「共感資本」である。「共感経済社会」においては、これらの「目に見えない資本」を評価し、増大させていく力が経営者に求められているのである。
そして、それらの資本を増大させていくには「本業を通じた社会貢献」を行うことである。日本型経営の価値観の復活である。社会貢献と利益追求のアップヘーベン(止揚)を起こすことである。
弊社の企業経営においてこのことを実践している。実際に共感資本が集まってきていることを感じている。それは必ずしも短期的に貨幣としての利益を生むものではない。しかしながら、企業が社会の公器として存在価値を発揮するためには長期の時間軸で物事を捉える必要があり、共感資本を増大させていくことは、変化に対していち早く対応できることに繋がり、企業の成長、企業の寿命を伸ばすことに繋がることを確信している。
青年経済人としてぜひ読んでほしい本である。

仕事の技法 (講談社現代新書)



「仕事の技法」の根幹は「対話の技法」である。言葉以外のメッセージ、真意や本音を感じ取る深層対話力をどのように身につけているのか。そのことが具体的に書かれている。
今年の新入社員に贈った本であるが、人間力を磨くうえで有用な一冊である。

(公社)日本青年会議所 直前会頭
(一社)大阪青年会議所 特別顧問

山本 樹育

田坂氏 その通りです。日本人なら皆、世のため人のためという思いを持っている、誰もが社会貢献を考えています。そして、昔から日本型経営は「企業は、本業を通じて社会に貢献する」という思想を語っています。しかし、三十年、二十年でグローバル資本主義の影響を受け、その思想を忘れてしまっただけ。だから今こそ、この思想を、もう一度思い起こすべきでしょう。

理事長 それは、日本人は元来、誰もが「社会起業家」だ、ということでもありますね。

理事長 これから大阪の未来を考えるうえで、大阪は「第二の都市」という観点を捨てるべきだと考えています。アジアの中で注目される都市に進化しなければ、日本において大阪の存在感を発揮できないと思うのですが、先生はどう思われますか。

田坂氏 東京一極集中の現状において、大阪は、もともと輝くべきでしょう。それは大阪のためだけではない。地方が、いくら東京を模倣しても、地域を活性化することはできません。新たな地方創生の

田坂氏 日本人にとってビジネスとは、本来、ソーシャルなものだからです。しかし、白鳥が自分が白いことを忘れたら「白い白鳥」と言わざるを得ない。ビジネスがソーシャルであることを忘れたからソーシャルビジネスという言葉に注目が集まるのです。昔から、私たち日本人は、世のため人のために事業やビジネスを行ってきた。ソーシャルビジネスという言葉は、我々が忘れてしまったその思想を思い起こさせてくれるという意味で、インパクトがある言葉だと思います。

理事長 それは、どういう意味でしょうか。

田坂氏 それは、素晴らしい取り組みですね。日本では昔から「働く」とは「傍(はた)を楽(らく)にすること」と言われます。すなわち、日本人の労働観には、本来、社会貢献の精神が含まれているのです。そして、誰もが「働き甲斐」を求め、生涯働きたいと思う。この素晴らしい日本の資本主義思想を、もう一度復活させるためにも、社会起業家を育てていくべきであり、ソーシャルビジネスを育てていくべきでしょう。

大阪が地方創生のモデルケースに。

田坂氏 「ソーシャルビジネス」が社会に大きなインパクトを与えると言われる理由は、資本主義のあり方を変えるからです。近年の日本ではウォールストリート型のグローバル資本主義が浸透し、企業経営者の役割は収益を最大化し、株価を上げることだという浅薄な経営論が流布されました。しかし、先のリーマンショックを挙げるまでもなく、こうした資本主義の在り方は世界中で壁に突き当たっています。そうした時代において、経済活動とは、本来どうあるべきかを問うのがソーシャルビジネスなのです。ただ私は、ソーシャルビジネスと聞くと「白い白鳥」と言っているように聞こえます。

理事長 それは、どういう意味でしょうか。

意義を活かして社会に貢献する「M1ボランティア大阪」という活動を行っています。メンバーだけでなく「Osaka Fun Fan Club」の方にも声をかけ、少しずつ輪が広がっています。



モデルケースが求められています。現在の地方創生の議論は、「貨幣経済(マネタリー経済)の視点だけで見る傾向がありますが、地域の真の豊かさとは、マネタリー経済だけでなく「ボランティア経済」が活性化していることです。それは、文化人類学で「贈与経済」と呼ばれるものであり、例えば、家事、育児、家庭教育、老人介護、地域の治安・清掃など、この社会を陰で支えている経済です。そして、このボランティア経済においては、金融資本ではなく「目に見えない資本」が動いています。それは、知識資本(人々の知識や知恵)、関係資本(人々の縁や絆)、信頼資本(人々の信頼)、評判資本(地域での良き評判)、文化資本(地域の個性的な文化)などです。大阪は、東京が忘れてしまった、このボランティア経済」と「目に見えない資本」を重視した地方創生をめざすべきでしょう。

理事長 大阪の文化資本というところ、おせっかいや「人のあたたかみ」があります。大阪の人はとにかく相手のことを気遣って、いろんなことをやろうとします。そういう部分を私たちが良い方向に拡大していけば、東京とは違う路線で新たな都市を築くことができますね。



田坂氏 大阪には、日本の資本主義を変えた、豊かさの定義を変えたと言われるような地域として発展して頂きたい。以前どの都市も「ミニ東京」になろうとした時代がありました。が、すべて壁に突き当たりました。だから東京とは違う豊かさを、

東京とは違う資本主義の在り方を通じて実現することが、これからの大阪の役割だと思います。岡部さんが言われる「人のあたたかみ」は、東京ではどんなに失われてきています。逆に地方には、温かい文化や親切的な精神が、まだたくさん残っていますね。

理事長 大阪特有の資産が大阪の魅力に変われば、「大阪に行けば何か良いことがある」と思ってもらえますね。

田坂氏 そうですね。日本の二千年を超える歴史を振り返るならば、この国の中心は、ずっと関西だったのです。東京や関東が中心になったのは、つい最近のことです。その意味で、大阪や京都を始めとする関西は、日本文化の中心という意味で、もともと誇りを持っていると思います。また、関西には何百年という長い歴史を持つ企業が数多くあります。長くお客様に支えていただける、長く続くということとは素晴らしい企業価値です。そうした価値を大切に、日本型経営を復活させることも、大阪や京都、関西の役割だと思います。

理事長 先生にそう言っただけだと勇気が湧いてきます。

田坂氏 この日本という国には、世界に誇るべき深い思想や精神、文化や伝統があります。21世紀に、それを新たな形で復活させることが大阪や京都、関西の役割だと思います。全国各地から、「大阪のように「目に見えない豊かさ」を大切に、地域をめぐそう」と目標にされる都市として、大阪がこれからますます発展していくことを願っています。

理事長 大阪を豊かにしていくことが私の今年のテーマであり、大阪JICの目指すところでもあります。私たちがリーダーとしてどう活躍していくか、今後も精一杯取り組まなければと改めて思いました。田坂先生、今日は貴重なお話をありがとうございました。

田坂塾

田坂広志が塾長を務める「田坂塾」には、現在、全国各地から、3700名を超える経営者やリーダーの方々が集まっていますが、「思想」「ビジョン」「志」「戦略」「戦術」「技術」「人間力」という「7つの知性」を垂直統合した「21世紀の変革リーダー」への成長をめざし、互いに切磋琢磨をしています。

具体的には――

- (1) メッセージ・メール「田坂塾便り」での学び
- (2) 「田坂塾大学 21世紀講義」のメール受講
- (3) 「塾長フェイスブック」でのウェブ受講
- (4) 塾長の講演、講義、講話、対話のCD受講
- (5) 年に3回行われる「塾長特別講話」の受講

を中心に活動を行っており、メール受信が可能な方でしたら、東京に限らず、大阪を始め、国内外どちらにお住まいの方でも入塾頂けます。
*入塾費や会費は不要です

この「田坂塾」に入塾を希望される方は、下記URLより登録頂けます。
<http://hiroshitasaka.jp/tasakajuku/entry/>

「田坂塾」事務局
tasakajuku@hiroshitasaka.jp
TEL 03-6257-3951
<http://hiroshitasaka.jp/tasakajuku/>

また、この「田坂塾」では、柱となる活動として、「塾長特別講話」を年に3回、開催しており、次回「塾長特別講話 第14講」は、下記の通り開催いたします。

【日時】 2017年 11月10日(金) 14:00-18:30
【会場】 東京都内
【演題】 人を育てる、己を育てる

この真剣勝負の、少数での学びの場に興味を持たれる方は、下記メールアドレス宛に、氏名と共に、「第14講 参加案内希望」とお伝えください。事務局より詳しい案内を送ります。



南海沿線案内パンフレット表紙 ※橋爪紳也コレクション

御堂筋の突き当りに立地するため、御堂筋を南下して来た人々にとっては御堂筋南端を意味するが、大阪南郊からやって来る人々にとっては、〃キタ〃へ向けられた巨大なファサードとして機能する大ターミナルビル。日々、ここに多くの人々が飲み込まれては吐き出され、大阪市全域へと散らばっていく。御堂筋を大動脈とするならば、南海ビルは、いわばそこに

「（旧称）南海ビルディングは四代目難波駅舎として建てられました。が、建築計画の背景には、当時の南海鉄道の路線の延長と、大大阪の発展があります」と南海電鉄ビル事業部主任、古川貴裕氏は語る。当時、既に大阪南部に路線を巡らせていた南海鉄道は、難波―大和川間を結んだ阪堺鉄道（1885年開通）を前身としている。阪堺鉄道はその後、順調に路線の延伸を進め、難波―堺間を全線開通。大阪市と大阪南郊間を結ぶ重要な交通手段となった。一方、堺―和歌山間に紀泉鉄道の敷設計画が浮上し、紀阪鉄道も発足。両社は合併して

1895年（明治28）に南海鉄道とな

利用者の増加により、
駅舎の新築が急務に。

血脈を送り出す心臓部。その役割は、大大阪時代から21世紀の現代に至るまで変わることはない。



南海電車発行の沿線の行楽地を紹介する葉 ※橋爪紳也コレクション

この頃難波駅は、単に停車場としてのみ利用されていたが、第一次大戦（1914～1918年）以降、大阪市の都心部はビジネス街、周辺部は住宅区域とする色分けが明確になり、周辺部の住民が年々増加。交通の便の向上により、仕事や買い物などで都心部へ出かける人も増えていった。さらに大正末期、ミナミの繁華街にカフェやバーが林立し始めたことに伴い、娯楽を求めて難波駅を利用する人々も増え、南海の終電車はカフェやバーの女給たちで賑わったという。

南海鉄道の輸送力の増強、大阪市と郊外の開発、そしてミナミの発展。これらの要因が重なって三代目難波駅舎は狭



1932年（昭和7）、商都・大大阪の南の玄関口・難波に南海ビルディングが誕生した。御堂筋南端に優美にそびえるコリント式大オーダーの巨大建築物は、大大阪の富の象徴であった。

取材協力: 南海電気鉄道株式会社
株式会社高島屋 広報・IR室
図版提供: 南海電気鉄道株式会社
橋爪紳也コレクション
出典: 「おかげにてーパ〇」
（株式会社高島屋発行）

ミナミの顔・南海ビルディング



1932年、高島屋南海店が入居するターミナルデパートビルディングとして誕生

誕生から80余年の年月を経た今もなお、建築当初の姿を留める南海ビルディング。急速に変わりゆく都心にありながら、変わらぬ風貌で「ミナミの顔」であり続ける古きは、誕生から現代に至るまで難波地区発展の核としての役割を担ってきた。今も昔もミナミのシンボルであり続ける、南海ビルディングの歴史を辿る。

威風堂々とそびえる、
大大阪の心臓部。

イ
チヨウ並木とハイブランドショップが立ち並ぶ御堂筋を南へ下り、道頓堀川を越えて、さらに難波方面へと進む。と突然、「御堂筋の行き止まり」を告げるかのように、目前に壮麗なクラシックビルが忽然と姿を現した。南海電気鉄道（以下南海電鉄）なんば駅に併設されたターミナルビル、南海ビル（旧称南海ビルディング）である。

大大阪時代の1932年（昭和7）に竣工し、世間の耳目を集めた優美かつ威風堂々たるその姿は、今以って健在。2010年（平成22）7月23日、大阪市都市景観資源に認定登録。2011年（平成23）1月26日には、その歴史的的重要性により、国の登録有形文化財に指定された。



竣工時より85年間、時を刻み続ける



初詣、温泉の案内 ※橋爪紳也コレクション

工事が竣工すると難波駅まで直通となり、次いで汐見橋―高野下間も全通した。さらに、1926年（大正15）本線の天下茶屋―粉浜間を複々線として、特急列車を新設。それまで難波―和歌山市間を1時間30分で運行していたところを、1時間15分にスピードアップした。また、浪速電車軌道や阪堺電気軌道と合併して上町線、阪堺線、平野線として大阪南部を縦横に結び、現在の南海路線の形成へと至ったのである。

この頃難波駅は、単に停車場としてのみ利用されていたが、第一次大戦（1914～1918年）以降、大阪市の都心部はビジネス街、周辺部は住宅区域とする色分けが明確になり、周辺部の住民が年々増加。交通の便の向上により、仕事や買い物などで都心部へ出かける人も増えていった。さらに大正末期、ミナミの繁華街にカフェやバーが林立し始めたことに伴い、娯楽を求めて難波駅を利用する人々も増え、南海の終電車はカフェやバーの女給たちで賑わったという。

南海鉄道の輸送力の増強、大阪市と郊外の開発、そしてミナミの発展。これらの要因が重なって三代目難波駅舎は狭



「南海高島屋全館開業」宣伝用新聞『ラッキーニュース』（1932年） ※橋爪紳也コレクション

隘を告げ、結果、四代目駅舎「南海ビルヂング」の建設計画が持ち上がることになる。

折しもこの頃は、大阪市の近代的都市づくりが進められ、在阪の私鉄各社のターミナルビルが相次いで建設された時期でもある。大阪電気軌道（現近畿日本鉄道）は1926年（大正15）8月、上本町に8階建、総延面積約1万2000㎡の大軌ビルを建設。阪神急行電鉄（現阪急電鉄）は1929年（昭和4）3月、御堂筋の北正面に地上8階、地下2階のビルを建設し、売場面積約1万500㎡の阪急百貨店を開業した。さらに1928年（昭和3）には、御堂

駅ターミナルの南海ビルヂング建設計画と、ビルの大部分に百貨店が入店するという情報を得る。難波駅は、北の梅田に匹敵する大阪の南の拠点で、1日十数万人の乗降客がある。日々、多くの人々が行き交う場所に7階建の太百貨店がオープンすると、高島屋長堀店が大打撃を受けることは必至だ。

この情報を手にした時は既に、南海鉄道と同業他社との間に賃貸契約はまとまりかけていた。しかし、高島屋幹部は熱意を伝え続け、南海ビルヂングとの契約を取り付けることに成功。1932年（昭和7）7月15日、高島屋南海店は全館オープンにこぎつけたのであった。

大衆の心をつかんだ 斬新な仕掛けとサービス

高島屋南海店は、ターミナル百貨店としては関西随一の売り場面積を誇り、立派なホールやサロン（食卓・宴会場）、写真スタジオ、美容室も完備した。また、他の百貨店にはなかった冷暖房装置も導入。当



高島屋内にオープンした「名物食堂」街

筋および、梅田―難波間を結ぶ地下鉄御堂筋線の建設計画をはじめ、運河、下水道、公園、墓地など、あらゆる施設を盛り込んだ第二次大阪都市計画が策定された。

こうしたさまざまな動きに後押しされ、南海鉄道は大大阪の南の玄関口にあわさしいターミナルビル建設を決定した。それは、御堂筋の拡幅に合わせてミナミの発展をめざす大プロジェクトだった。

御堂筋南端に ミナミの顔、誕生。

南海ビルヂングの設計監督はすべて工学士久野節（くのみさお）氏が、主体工



南海電鉄難波開発部課長補佐・川畑氏（左）とビル事業部主任・古川氏（右）

時としては最先端の空調設備はお客を喜ばせ、「今年の避暑はなんばの高島屋で」と連日、大いに賑わった。

また、百貨店としては初めて結婚式場を設け、化粧から挙式、記念撮影、披露宴までを一括して一ヶ所で行える諸設備をそろえ、浴室も設置。そのサービスと設備は「祝儀いらずで、気軽に便利に使える」と庶民の注目を集め、申し込みが殺到した。

さらに、3階には「名物食堂」なるものを増設。有名店6店が町中の通りさながらの店構えで出店するというユニークな売り場づくりも奏功し、食通たちがこぞで利用したという。また、これまで着物姿で不統一だった女子社員の服装を、全員ワンピースにレースのついたモダン

事は大林組が担当。付帯工事一流の専門業者が請け負い、工事は順調に進捗した。そして、着工から約3年の歳月を経た1932年（昭和7）7月9日（ついに、地下2階、地上7階、間口約170m、延床面積約4万3000㎡の一大ターミナルビル、南海ビルヂングが落成した。

1階中央部は連絡の利便性と乗降客の増加を考慮して壮大な駅ホールを新設し、地下鉄の駅に直面するよう設計。東側には高島屋を誘致し、西側は南海鉄道のオフィスと一般の貸室とした。その多彩な役割を担う建物の顔である長大な壁面には、16本のコリント式壁柱とリズミカルな連続アーチで囲った3連窓のルネサンス・スタイルを採用。さらに、表側外壁全面には国産テラコッタを張り詰め、幅広い御堂筋の終着点にふさわしい重厚な外観に仕上げた。

「都心とはいえ、この頃、ビル周辺は木造の建物ばかりで、高い建物といえば御堂筋沿いの瓦斯ビルさんくらい。まさに『ぞびえ立つ』といった印象だったと思います」と古川氏。南海ビルヂングは誕生とともにミナミのシンボルとなり、戎橋筋、南海通り等の繁華街は、同ビルを中心に放射状に伸び、周辺地域の発展の起爆剤となった。また、難波駅を起点とする交通の発達は大大阪の南方への拡大を促し、田園は市街地へ。南海ビルヂングは大大阪だ

なデザインの制服に新調したことも話題をさらい、後の百貨店女子社員の風俗にも大きな影響をもたらした。

梓にとらわれない自由な発想で、明るい話題を提供し続けた高島屋。交通の便と南海ビルヂングという大阪のシンボルを味方につけて順調に集客を伸ばし、ターミナルデパートとしての役割を果たすとともに、大阪ミナミの発展の「翼を担ったのである。

そしてオープンから約3年後の1935年（昭和10）10月30日、待望の難波―梅田間市電地下鉄開通。大阪の南北両玄関の移動はわずか8分に短縮され、スピード時代の幕が開けた。同時に、南海ビルヂング地階には新しく繁華街が生まれ、通勤客や買い物客でおいに賑わった。



屋上には噴水付の庭園があった

けでなく、近郊発展の根源地を象徴する存在にもなったのである。

ターミナル百貨店、 高島屋がオープン。

南海ビルヂングとともにミナミの顔として親しまれているのが、同ビル竣工当初から入店している高島屋である。京都で呉服商として創業した高島屋は、1922年（大正11）、当時大阪のメインストリートだった堺筋長堀橋に長堀店を開店し、本格的な百貨店経営に乗り出した。

「この頃日本は、大恐慌の煽りを受けていましたが、多彩な企画と充実した内容の展覧会、斬新な陳列装飾などで話題を呼びました。また、1927年（昭和2）に下足預かりを廃止し、靴や草履を履いたまま自由に出入りできるようにするなど、百貨店大衆化の先駆けとなったのです」と高島屋広報・IR室の桑原俊尚氏は言う。しかし、御堂筋計画が具体化すると、大阪の中心は堺筋から御堂筋へと移っていった。時を同じくして高島屋幹部は、難波



高島屋南海店中央入口ファサード（当時）



南海会館パンフレット見開き（1957年） ※橋爪紳也コレクション

変わりゆく難波で 維持される大大阪の威容

時の流れの中で、南海ビルヂングはいつしか「南海ビル」と呼ばれるようになり、難波界限も南海電鉄主導で、発展を遂げることとなる。

1970年には（昭和45）には高島屋の協力のもと、なんば駅舎を南海ビル2階に移設。さらに1980年代にはなんば駅舎を同ビル南側へ移動し、ビル内には高島屋のみが残ることとなった。同時に南海電鉄は、なんば駅舎下にファッション



高島屋広報・IR室 広報担当課長の桑原氏

ストアを中心とするショッピングセンター「なんばCITY」がオープン。1日約40万人が乗り降りする駅施設と魅力あるショッピングスペースを有機的に結び付け、大阪ミナミの新しい街づくりの中心地として存在感を高めることに成功したのである。

さらに1990年(平成2)には、関西国際空港開港を機に、なんば駅周辺の地域開発構想の環として建設された超高層ホテル「南海サウスタワーホテル大阪」を開業。2003年(平成15)には、大阪球場跡地に大型ショッピングセンター「なんばパークス」をオープンし、2009年(平成21)には、なんばCITYにあったロケット広場を関西国際空港と直結する大阪の玄関口にふさわしい空間にすべく、ウエルカムロビー「なんばガレリア」として整備するなど、難波地区の都市機能の強化に取り組んできた。

大がかりな開発を行う一方で、南海ビルのダイナミックかつ壮麗な姿はかたくなに守られてきた。「このビルは大大阪の

「大大阪時代」を歩く

※画像提供: 橋爪紳也コレクション

盛り場気分のターミナルビル

南海ビルディングは、御堂筋の南端を占める「大大阪時代」を代表するランドマークのひとつである。東西に長く、壺飾を冠に戴くコリント式オーダーの半柱を幾本も並べて、柱上をアーチで繋ぐ。新古典様式の華やかな外観が見どころである。



象徴的建築物で、大阪ミナミの顔。古くから新しく建て替えるのではなく、再生しながら保存したいという思いがあったのです」と古川氏。その思いは今も変わらない。現在、南海電鉄は南海ビルの外観は保存しつつ、「南海ターミナルビル」等再生計画として、周辺開発プロジェクトを続行中だ。

「2018年(平成30)には、南海ビル南隣りに、同ビルと接続する『仮称』新南海会館ビル』が竣工します。関空直結の立地を活かしたオフィス機能を強化するとともに、利便性を活かした多目的ホール等を設置するなど、新たな都市機能を備えた複合ビルにする予定です。このビルが完成すれば、難波エリアのさらなる活性化を牽引できると考えています」と難波開発部の川畑雅史氏は期待を込める。

「難波エリアに外国人観光客が増えつつある今、南海ビルと新たに生まれる周辺施設は、観光都市にふさわしい存在になると思います。南海電鉄はこれまで、関空と難波を結ぶ空港線を開通させ



多くの人で賑わう南海ビル前

1 ミナミに彩りを添える

南海ビルディングの設計者は、泉州にゆかりのある久野節。岸和田藩士の家系であるという。旧制堺中学校から東京帝国大学建築学科を卒業、千葉県技師を経て鉄道省に転じ、初代の建築課長となる。昭和2年に退官、自身の事務所を構えてからも、鉄道省囑託として各地の駅舎や関連施設のデザインを担当する。ファサードの構成に新趣向を示す南海ビルディングは、わが国における鉄道建築の第一人者として活躍した久野の代表作である。

また南海ビルディングは、環境演出など技術面でも、おおいに工夫が凝らされた。電光文字のニュースを流す「スカイサイン」、十五秒周期で赤黄緑に変色する照明器具「ムービーカラーライト」など、電気を用いた最新の演出装置が設備された。電鉄事業者が建設したビルであり、また盛り場に位置するという事情もあつてミナミの夜景に彩りを添える斬新な演出が施されたのだろう。

2 南大阪的な盛り場気分

南海ビルディングは、昭和5年に第1期、昭和7年に第2期を完工させている。当初から高島屋が入居、「東洋最大規模の百貨店」として脚光をあびた。均二価格の商品を並べる「高島屋十銭ストア」、直営結婚式場「東洋」を自称した大食堂など、ユニークな店舗構成も評判をとる。全館冷暖房の設備を他店に先駆けて導入した点も話題となった。

雑誌「浪華タイムス」(昭和11年3月号)の特集記事「百貨店巡礼記」では、他のデパートと比較したうえで、「従来のデパート経営方針から一歩脱した萬艦色的な華美な、スピードアップな、南大阪的な、盛り場気分な、そうした特徴を兼

るなど、国際ターミナルビルとしての環境を整えてきました。今、進めている南海会館ビル建替計画は、国際都市を見据えてきたなんば再開発の集大成のプロジェクトです」と古川氏。



かつて、大大阪の南の玄関口として、庶民のために開かれた南海ビルヂング。今は周辺施設も巻き込み、海外から訪れる人々を迎える日本の玄関口としての役割を担っている。

橋爪紳也・編 新書判

「大大阪の時代を歩く」

大正～戦前のおおさかはこんなによかった!

かつて大阪には、「大大阪」と呼ばれた時代があった…



総人口203万人は東京を凌ぎ世界6位、「東洋一の商工都市」と謳われた工業都市化、御堂筋を始めとする「格」と「美」を備えた都市計画、世界最先端の文化を集めた情報発信地。世界に冠たるメトロポリス「大大阪」の歴史と痕跡をたどる!

9月5日 書店にて発売

定価: 本体800円+税

<本件に関するお問い合わせ>

株式会社洋泉社 (<http://www.yosensha.co.jp/>) TEL 03-5259-0251 FAX 03-5259-0254

備したモダンな暮らしを惜しみなく発揮し、多角的乃至純明朗気分横溢せる平面主義的経営を行なっている」と評価している。

来客数は、梅田の阪急百貨店よりも多く、おおいに賑わっていた。南海難波駅で乗降する「あわただしい気分の顧客」と、心斎橋筋商店街から流れて来る「散策気分の顧客」の双方を受け入れている点に特徴がある。その様子を記者は「南大阪的」な「盛り場気分」が漂うと評価したわけだ。

3 郊外電車とデパートが握手

高島屋南海店が全館開業した昭和7年、「ラッキーユース」と題する宣伝用の新聞が配布された。私の手もとにその実物がある。

この広告媒体では、見開きページの全体を使つて、各フロアの売場を紹介しつつ、開店日である7月15日から始まる記念大売り出しを告知している。紙面では各階の陳列風景に加えて、市街地を見晴らしたパノラマ景の写真を掲載。屋上庭園からは「大阪の展望」ができると訴える。

表紙には、南海ビルディングの偉容を空撮で紹介する。黒い薨の波が広がるミナミの繁華街に出現した白く浮かぶ姿を、ここでは「陸上の巨船」と表現している。文中では、このビルを東京の丸の内ビルに次ぐ「日本第二のデッカイ建物」、また「理想の立体的お買物街」などと強調している。

空撮写真の横に、高島屋との縁が深い与謝野寛(鉄幹)と晶子が「高島屋全館開店を祝ふ歌」を寄せている。鉄幹は「物のみを満すにあらず此處にあり新しき世の光る愛と美」とその美観を讃え、晶子は「と、のひめ大阪城に天守成り 南難波に高島屋成り」と、市民の寄付で復興された大阪城天守閣と比較している。

「ラッキーユース」には、大阪市長であった関

と白川市会議長が、完成したばかりの高島屋の屋上で、大阪の現状と将来について意見を交換する様子を報じるルポも掲載されている。「和やかな都市計画漫談」という小見出しが面白い。「空には煙が多い、地上には緑が少なく、これはわが大阪市のためにもっとも考慮せねばなりませぬ」「同感、それに街の美しさといふことも大切です」「それには家並びを統一することが一番いいのですが。…」「調和的に統一しているつまり調和美ですなア」

このように述べたあと関市長は、工事の途上であつた御堂筋にふれて、道路に面した地権者は周囲に調和するように家屋を建設、「ほかでは見られない御堂筋独特の雰囲気」を創つてもらいたいと強調する。

また白川市会議長は、難波のこの地で郊外電車とデパートが握手していることは、「大大阪将来のため非常に結構な配置だと思ふ」と述べ、関も賛同している。傍らで、ふたりのやりとりを聞いていた高島屋の細原取締役と川勝支配人は、ここで大いに自信ありげにうなずいた、と記事にある。

市街地が拡張した「大大阪」の時代、南大阪の郊外に展開された新興の住宅地と、都心の業務集積とを繋ぐ役割を、この新しい複合的なターミナルビルが担うことが期待されていたことが判る。



橋爪紳也 はしづめしんや
大阪府立大学
大学院経済学研究科 教授

この店、この一品。

「第5回」浪速割烹

其々味 割鮮

其々味 割鮮

始末家の大阪人も唸らせる、
割烹料理の「メインディッシュ」。



志摩観光ホテルの高橋忠之総料理長（当時）の下で4年半フランス料理の真髄を学び、上本町都ホテル「ラ・メール」への出向を経て、1985年（昭和60年）に瓦川に戻る。以来、日本料理二筋に32年。高級フレンチから高級割烹の世界への「華麗なる」転身は、しかし、当初「衝撃」の連続であったと言つた。

其々のネタの旨味を
最高に引き出す

取材当日、上野氏自らが包丁を振る、八種其々の刺身の美味しさを引き出す特製のソースと共に供された「其々味 割鮮」は、漆黒の美しい塗りの盆に鮮やかに盛り付けられて出て来た。刺身を注文する客の9割が選ぶという看板料理。この一皿へのこだわりは実はフレンチと関係がある、と上野氏は明かす。「フランス料理のシェフはソース作りに命を懸けています。日本料理のメインディッシュである刺身が醤油だけでいいのか、と思つたんですよ。」

「公家」の町・京都で生まれた上品な懷石料理とは違い、「商人」の町・大阪で生まれた割烹料理は、真昆布でしっかりと取った出汁で魚の頭から中骨まで無駄を出さずに使い尽くし、味わい尽くす。「始末家の大阪人は鯛を好む」と言われる所以は、この合理性にある。割烹料理は万人向けなのである。

かつて地方から大阪に商売で出て来た人々をもてなした割烹料理は、今では海外から大阪にやって来る新たな客層をも引き付け、魅了する。

「日本へ来て、美味しい店に出会った。またいつかあの店を訪ねてみたい。旅の記憶に残る、そんな貴重なひとときをお届け出来たらと思つた。」



浪速割烹 瓦川
大阪市中央区道頓堀一丁目七番七号
電話 06-6211-4736/3030
定休日：月曜
昼：11:30～14:00（ラストオーダー）
夜：17:00～21:30（ラストオーダー）

月の法善寺横丁に名店は数々あれど、浪速割烹と言えはこの店を置いて他にない。創業1965年（昭和40年）、大阪を代表する高級割烹の老舗「浪速割烹 瓦川」である。初代が初め笠屋町に開いた雑炊を中心とする店。その後周防町に出したカウンター・懷石の二店をまとめ、1970年代に法善寺の現在地に移転した。

高級フレンチから、
割烹の世界へ。

半世紀を超える歴史の中で培われて来た「伝統と創作」という信念を受け継ぐのは、現在の店主・創業家二代目の上野修氏。高校を卒業して19歳で一度は店に入るものの、「一念発起。小説『華麗なる族』や2016年伊勢志摩サミットの舞台ともなったあの名門・

ザ・元気人
INTERVIEW

『がさつ力』で
世界に出よう。

芸人 千原せいじ氏



言 語や文化の違いを超越した圧倒的なコミュニケーション術を見せる千原せいじ氏。自らの著書のタイトルにもなった『がさつ力』。その極意について伺った。

「いま、せいじさんの『コミュニケーション力』に注目が集まっています。」

子どもの頃からムダなことが嫌い、いつも合理的に動きたいというのがあります。海外ロケで言葉が通じない人とすぐに仲良くなれるのも、早くロケを終わらせたいため（笑）。滅多に行けない場所にいるんだから他のこ



くれた人は信用に価する、ということですね。逆に儲かってから寄ってくる人にはろくな人がいません。それから大事なものはモチベーション。僕なら芸が好きで芸人になつて、Jリーガーはサッカーが好きで上手になりたくてプロになる。自分はこれが好きだとか、誰かに喜んでもらえるとか、ビジネスは人がハッピーになることをせなあかんと思うんです。貧乏人から金を巻き上げるような商売もありますが、何をモチベーションにしてるんやと思いますね。



「居酒屋を経営されるなどビジネスでも活躍されていますね。」

とをしたいじゃないですか。対日本人でも同じです。人づきあいなんて、長くつきあえるかケンカするかのどちらかと思えば、打ち解けるまでの時間をもったいない。「発でパツと見極めた方がいいですよ。僕が言う『がさつ力』というのは合理性なんです。」

ビジネスを通じて分かったことは、立ち上げ時にサポートしてく

「大阪を元気にするには何が必要でしょう。」

それはやっぱり阪神タイガースが勝つこと（笑）。あとはそう、ルールを守ること。大阪のルールがグローバルと

思つてはダメです。大阪の人はなかなか外に出ないですよ。外のことを知らないから、余所でも大阪のルールを通してお互い不幸になるんです。僕は海外に行くようになって、いろんな人から、いろんなことを教わりました。外に出てわかることって、たくさんあります。JCIの皆さんはこれからの大阪を担うわけですから、もつと大阪の外に出てほしい。そうすれば、大阪も少しは良くなるんじゃないかなと思います。



プロフィール
1970年、京都府福知山市生まれ。吉本興業所属。1989年、弟の千原ジュニアとコンビ「千原兄弟」を結成。1994年にABCお笑い新人グランプリ優秀新人賞、上方漫才大賞新人賞を受賞。芸人、タレントとして活躍するかわら、居酒屋やバーを経営する実業家としての顔も持つ。2016年8月には著書『がさつ力』（小学館）と新書『がさつ力』を出版。現代社会こそ「がさつ力」が必要と、毎日が刺激的になるメソッドを紹介している。

【第五回】大阪フィルハーモニー交響楽団

お話し：楽団事務局 吉田 芳さん

戦後の大阪に誕生し、長く市民に愛されてきた大阪フィルハーモニー交響楽団。7月には創立70周年のメモリアルイヤーを記念した特別公演、井上道義氏指揮によるバーンスタインの「ミサ」が大好評を博し話題となりました。名指揮者として知られる朝比奈隆氏が創設し、55年に渡り築き上げた大阪フィルの歴史と、新たな時を刻み始めた「これから」について伺いました。



翌日の定期演奏会を控えたリハーサル風景（大阪シンフォニーホール）

戦後の大阪で、音楽を求め誕生した楽団

大阪フィルハーモニー交響楽団（以下、大阪フィル）は今年創立70周年を迎えます。7月に開催した特別企画「バーンスタインの「ミサ」」は、日本での公演が23年ぶりということもあり、フェスティバルホールの2500席が完売。関西のみならず全国のお客様にお越しいただきました。また、創設者である朝比奈



「大フィル」の象徴、故朝比奈隆氏

もつと響かせ、もつと鳴らせ。巨匠・朝比奈隆が築いた音の力。

隆の軌跡を大スクリーンで再現するスクリーンコンサートを開催。往年のファンはもちろん、若い方々にも当時の演奏を楽しんでいただきました。

大阪フィルが誕生したのは、1947年。創設者の朝比奈は京都大学法学部に在籍していた頃、大学のオーケストラでバイオリン奏者としてロシア人のメッテル先生に師事、やがて指揮者に傾倒していきま

よく弾く、よく鳴るオーケストラ

大阪には4つの楽団があります。中でも大阪フィルは「よく弾く、よく鳴るオーケストラ」と言われま



広報担当の吉田芳さん

す。本拠地のフェスティバルホールが2500席と大きく、しっかりと弾かなければ3階席の後ろまで音が届かないですね。ホールに鍛えられたことに加えて、朝比奈の響きへのこだわりがとても強かった。「もつと鳴らせ」が口癖でした。私は晩年しか知りませんが、「ホールの音が鳴りきった、大きく豊かな音に身を包まれたら感動しない訳がない」と言っていたことを覚えています。

客演指揮者の方々は「大阪フィルの演奏は朝比奈を感じる」とおっしゃいます。いまや朝比奈を知っている楽員は半分もいませんが、そんなふうに言われるのは、彼が築き上げた音楽が伝統として受け継がれているからではないでしょうか。大

朝比奈隆とはどんな人物だったのか。大阪フィルに42年間在籍するバイオリン奏者の橋本さんにお話をお聞きしました。



第2バイオリン奏者 橋本安弘さん

の鐘が響いたことから「奇跡」と呼ばれ、大阪フィルを世界に知らしめるきっかけにもなりました。朝比奈先生は93歳まで55年間に渡り指揮をされました。私が入団した頃はすでに60代でしたが、それを感じさせないくらい情熱的でした。身体全体を使って想いを伝える、うなるように声を絞り出す場面もありました。先生には「もつと弓を使って」とよく言われました。バイオリンは腕全体を使って弓を振らなければ音が響かないんですね。しっかりと弾いているつもりでも「もつとがんばれ」と何度も言われました（笑）。



長身痩躯のダンディだった朝比奈氏

一人ひとりの音楽を、情熱で引き出す名指揮者。

私が大阪フィルに入団したのは1975年、ちょうど初の欧州演奏旅行となるオーストリア・聖フローリアン修道院での演奏会の準備中でした。当時の朝比奈先生の気迫はすごかったですね。大理石造りの教会は音がよく響き、残響がとても長い。先生は普段もゆつくり指揮をされるのですが、この時はなおさらゆつくりしたテンポで、それが教会の音響に合ったのだと思います。この演奏会は第2楽章が終わった瞬間に教会

不思議なことに、きちんと指揮をするのがいい指揮者というわけではなく、先生のように、ちよつとわからないの方がいいこともあります。わからないと奏者の方で推察し、自分で音楽を作らなければなりません。楽員それぞれが考え、自分の音楽をつくらなければいい演奏は生まれません。それぞれの音楽を引き出



大阪フィルハーモニー交響楽団

大阪市西成区岸里1-1-44
TEL: 06-6656-7701
演奏会のお問い合わせ、チケットのお求めは
<http://www.osaka-phil.com/>

阪はお客様の雰囲気も個性的だそうで、外国人の演奏者からは「大阪は熱くて反応がいいね」と言われます。そんな「熱い」お客様と「緒だつたからこそ、大阪フィルはこれまでやつてこられたのだと思います。

七十年の伝統に刻まれる新たな個性

大阪フィルは年10回の定期演奏会をはじめ、年間100を超える自主公演を行っています。最近では学校



1947年4月の関西交響楽団（大フィルの前身）第一回演奏会（大阪朝日会館）



札幌や仙台、横浜、広島、福岡など、大きな都市には必ずオーケストラがあります。いつでも、好きな時に、気軽に音楽にふれあえるというのは、私たちが生きる上でとても大事なことであり、幸せなことだと思います。クラシック音楽をあまり知らない方々にも、ぜひ演奏会に足を運んでいただいて、この幸せを味わってもらいたいですね。



大阪市北区豊崎にあるHomedoor

「誰もが何度でもやり直せる社会」

私たちが目指すのは、

川口加奈さんは、19歳で認定NPO法人 Homedoor（ホームドア）を設立。シェアサイクル「HUBchari」（ハブチャリ）事業等で雇用を創出するなど累計500名以上を支援しながら「誰もが何度でもやり直せる社会」を目指しています。

日本では一度ホームレス状態になると、路上脱出の機会是非常に限りられており、路上で亡くられる人が大勢います。そのような状態に陥ってしまったり、かけは企業の倒産、最近では介護離職、発達障害など多岐にわたります。特に、若いホームレスの人の中には、児童養護施設出身や母子家庭の出身者、被虐待経験があるものが多く、決して自己責任だけでは片付けられない理由でホームレスになっています。しかし、彼らに対する世間の風当たりは厳しいです。そうならざるを得ない状況があることを、まずは知っていただきたいと思っています。



HUBchariで頑張る「おっちゃん」たち

私がホームレス問題に出会ったのは14歳でした。通学でホームレスの人が多くエリアを通るようになり、なぜ日本に、こんなに多くのホームレスの人がいるのかを知りたいと、そのエリアで行われている炊き出しを手伝うようになったのが活動の始まりです。高校2年生の時、ボランティアリーダーとしてワシントンDCの国際会議に参加し、問題を解決するためにはホームレス支援システムを確立しなければならないと考えるようになりました。大阪JC主催の「PCY事業」では世界の若者との交流を通じてアクションを起こす重要性をさらに実感。そして設立したのが、NPO法人



仲間たちと共に!

Homedoorです。私たちはホームレス状態にいる7割近い人たちが自転車修理が得意であることを知り、その特技を活かすシェアサイクル「HUBchari」事業をスタートさせました。街中で借りて返せるレンタサイクルの進化版で、現在大阪府内12カ所で開催しており、ホームレス問題と自転車問題という大阪の2大問題を一挙に解決するプロジェクトです。その他にも計4業種で雇用を創出しており「おっちゃん」たちが路上生活を脱出する足がかりになっています。

ホームレス問題を100%解決することは難しいかもしれませんが、少しでも少しずつ路上脱出の精度を高め、大阪でモデルケースを確立し、他地域での展開や行政への働きかけなど、今後も自分たちが必要だと思ふことをやっていきたいと思っています。昨年、Homedoorには200名近い方が相談に來られました。彼らと話すことが純粋に楽しいですし、「あそこに行けばなんとかなる」という場になると嬉しいですね。今回の受賞を機にぜひ講演会に呼んでいただいて、より多くの人にホームレス問題を知ってもらえることを期待しています。

大阪のメンバーとつながる

HUBchariでは、新拠点を募集中です。御社のビルやカフェ、ホテルの軒先に、HUBchariを置いてください!

【大阪青年会議所・推薦】 川口加奈さん、田村雅文さんが 「第31回人間力大賞」受賞!

人間力大賞 受賞者インタビュー

日本青年会議所が主催する『人間力大賞』は、環境、国際協力、福祉、文化・芸術、スポーツ、その他の分野で積極果敢な活動、挑戦を続けている人間力あふれる若者を発掘し、更なる活躍を期待して国民全体で応援する「青年版国民栄誉賞」。今年31回目となるこの賞において、大阪JCが推薦したお二人がグランプリ、準グランプリを受賞されました。審査員のみならず、会場にいた人すべての心を揺るがしたその活動内容について、改めて伺いました。

★田村雅文さんもダブル受賞!



一方、中東・ヨルダンに住み、紛争を逃れ避難生活を送るシリア人と交流しながら、多くのシリア人が望む祖国への帰還実現のため、紛争停止を目指して日本や世界へ情報発信を続ける田村雅文さんは、「準グランプリ」を受賞! 同時に「NHK会長奨励賞」も受賞してダブル受賞に輝きました。

川口加奈さん、田村雅文さん、おめでとうございます!!

★川口加奈さんがトリプル受賞!



第31回「人間力大賞」で、最高賞である「グランプリ」と「内閣総理大臣賞」を受賞した川口加奈さん。加えて、「参議院議員議長奨励賞」も受賞し、トリプル受賞の栄冠に輝きました。

川口さんは、大阪青年会議所の継続事業であるPCY事業の第1期生であり、「大阪変革塾」の講師も努めて頂いた、大阪JCの期待の星。社会の第一線で活躍される今、大阪青年会議所としても大変に喜ばしい受賞です。

第31回「人間力大賞」で、大阪青年会議所が快挙!



公益社団法人日本青年会議所が主催する青年版国民栄誉賞である、第31回「人間力大賞」において、大阪青年会議所推薦のお二人、川口加奈さんと田村雅文さんが、それぞれグランプリ、準グランプリの栄冠に輝きました!!

OSAKA ええとこ撮り フォトコンテスト

第4回フォトコンテスト 「大阪の夜景」

結果発表!!

大賞 1名

ヘリコプタースカイクルーズ
ベイスайдナイトクルーズコース (約7分)



wasabitoool 様 (岸和田市)
「水都入港」

理事長賞 1名

市内ホテルお食事券



Aoi 様 (大阪市)
「歩道の額縁」

OsakaFunFanClub賞 3名

たむほる特製
てっちゃん鍋



ぴんける 様 (神戸市)
「道頓堀ネオン道を渡る」



かつきー 様 (大阪市)
「光のアート」



笠井 忠 様 (奈良市)
「銀河の噴水」

マチミラ OSAKA 2017 REPORT!



2017年度大阪青年会議所は、「創力」あふれるまち大阪の実現を目指して様々な活動を展開しております。私たちの住むまち大阪は、多様性に対する寛容性とおおらかな気質を備え、独自の発想で世界に先駆けて多くのものを創り出し、力を集約して課題に立ち向かい、民の力が創り上げたまちです。その原動力となったのが、一歩先の未来に必要なものを捉えて創り出してきたソフトパワー、すなわち、「創力」です。こうした成り立ちを活かし、アジアの文化、情報、人、そしてビジネスの玄関口として中核的役割を担うアジアのハブ都市こそ、大阪が目指すべき未来のまちの姿だと私たちは考えております。

この度、私共の企画致しました「マチミラ OSAKA 2017 ~ Creating the Future ~」は、独創的な発想を持って未来を創造する人々が一堂に会し、様々な価値観が融合し、繋がることで、まちが持続的に発展する新たな仕組みを創り出すきっかけとなることを目的とし実施致しました。

当日は大阪の企業の持つ先進技術の体感、AI、IoT、ドローンを使用したレースなど大阪の魅力を世界に向け発信を致しました。2日間で13,000名の方にお越し頂き、大盛會のもとに終えることが出来ました。

ギネス

モチーフは大阪を代表する有形資産の一つである大阪城や通天閣を選定し、デザイン画の作成は、大阪を代表する CAT ミュージックカレッジ専門学校様のご協力、使用済み乗車券は西日本旅客鉄道株式会社様からのご協力、また、貼り合わせ作業は、多くの方々に貼付けのご協力いただきました事で大阪の魅力あふれる人の力、モノを融合したソフトパワーでギネス達成し大阪のまちを世界に存分に発信で魅力あふれる大阪の未来を切り拓き持続的に発展に寄与できたと確信しています。



やってみな
カフェ

2017年度新しい取組みとして、まちづくり意見交換会「やってみなカフェ」と名付け、大阪市民の方々に対象にした参加型のワークショップを開催致しました。大阪府を5つのブロックに分け、課題テーマを「魅力あるまち大阪の実現に向けて」とし、大阪のまちの課題から考えた解決策、そして事業案の立案まで導いて頂きました。マチミラ OSAKA 2017 では、魅力あるまち大阪の実現に向けて導いた事業案を府民の皆さんの前で発表して頂きました。大阪府立大学観光総合研究所所長橋爪紳也氏には各グループの発表のご講評も頂くことができました。

その後、大阪府知事松井一郎様、橋爪紳也氏 (コーディネータ)、理事長岡部倫典による「大阪万博誘致に向けて府民の皆さんに伝えたいこと」と題し対談を実施しました。松井知事からは万博誘致に向けた手ごたえや、府民の皆さんが主役となってほしい!とお話し頂き、岡部理事長からは過去 1970 年万博誘致活動の歴史、そして今回の万博誘致に向けて最大限協力していくことをお約束し対談は終了致しました。2018年11月の開催地決定に向けて、府民の皆さんと共に万博誘致に向けた気運を高めていきましょう!!



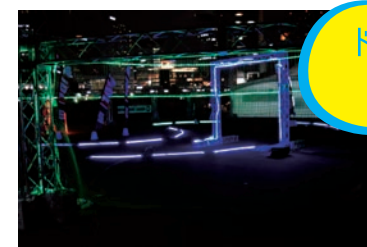
Konamon
フェスタ

たこ焼きをテーマにした「おもしろ大阪コンテスト」を開催、さらに、日本に限らず、アジア料理を含め、焼きそば〜スイーツまで「こなもん」と呼ばれるあらゆるものが、当日うめきたサザンパークに集結しました。



Konamon /

ドローン
レース



今後、防災現場など環境保守・点検、メディアでの成長が見込まれるドローンを使用したレースを実施致しました。当日は LED ライトにてコースを彩り、近未来感のある空間で大迫力のレースを展開しました。10~40代まで幅広い参加者がVRを装着し、的確な操縦をしている姿は必見でした。

編集後記

Sencia2017年9月号をお楽しみ頂けましたでしょうか? 今号の特集「大大阪時代を歩く」の第5回目は、前号のキタに対するミナミからの回答とも言えるべき、難波・南海ビルディングと大阪高島屋の大コラボ。御堂筋を挟んで対照的な二つの街のどちらが欠けても今も昔も大阪は成り立たないと確信させる内容だったのではないのでしょうか。一方、芸術の秋に相応しいあの

「大フィル」取材した「浪速の名匠」は初の見開きでのお届け。朝比奈隆氏の足跡の偉大さを改めて実感しました。さらに、法善寺横丁で半世紀の歴史を刻む「浪速割烹 崑川」も登場。大阪が誇る経済・文化・芸術・食の一流の揃い踏みとなりました。さて次号は、いよいよ今年度最終号! 11月下旬の大フィナーレをどうぞお楽しみに!



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-30 オーク4番街401号室
TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163 www.osaka-jc.or.jp/

スマートフォン版



発行
一般社団法人大阪青年会議所

企画制作 onthedesk

Producer/Creative Director
堀之内 博昭

ArtDirector/Designer
オガワヨウヘイ

Writer/Interviewer
堀之内 博昭・井本 句子・いしだかおり

Photographer
渡部 健五

エリシュカ 最後の来日公演！

PHILHARMONIC ORCHESTRA
大阪フィルハーモニー交響楽団
2017-2018 SUBSCRIPTION CONCERT SERIES
第512回定期演奏会



© Yoshinobu Fukaya /aura.Y2



ソプラノ：木下 美穂子 Mihoko Kinoshita, *Soprano*

バリトン：青山 貴 Takashi Aoyama, *Baritone*

合唱：大阪フィルハーモニー合唱団

(合唱指導：福島 章恭)

Osaka Philharmonic Chorus

(Akiyasu Fukushima, *Chorusmaster*)

ドヴォルザーク

伝説曲 作品59より 第1～4曲

Dvořák : Legends op. 59 Nos. 1 - 4

テ・デウム 作品103

Dvořák : Te Deum op. 103

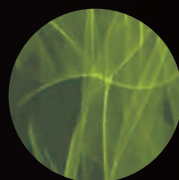
交響曲第6番 二長調 作品60

Dvořák : Symphony No. 6 in D major op. 60



助成／公益財団法人
アフィニス文化財団

「音楽文化の担い手としてのプロ・オーケストラが主催する、わが国ならびに各楽団が活動の重点を置いている地域にとって意義がある企画」として選ばれました。



指揮：ラドミル・エリシュカ

Radomil Eliška, *Conductor*



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)

主催／公益社団法人 大阪フィルハーモニー協会

協力／フェスティバルホール
株式会社ドルチェ楽器

2017年10月19日(木)19時開演(18時開場)・20日(金)19時開演(18時開場)

会場：フェスティバルホール

お問い合わせ：大阪フィル・チケットセンター Tel.06-6656-4890 <http://www.osaka-phil.com/>
営業時間 平日10:00～18:00 / 土曜10:00～13:00 / 日・祝・年末年始は休業

料金(全席指定・税込)：

A席 ¥6,000 B席 ¥5,000 C席 ¥4,000 *学生席(3階席) ¥1,000 BOX席 ¥7,000

25歳以下の学生の方を対象に、3階席を学生席として販売しております。

70th anniversary



Junior Chamber International Osaka

一般社団法人 大阪青年会議所